

# 第28回 地域づくり団体 全国研修交流会 青森大会に参加して

(財) えひめ地域政策研究センター  
研究員 三好 康午

「出会う・つながる・動き出す くみんながけやぐ(仲間)青森で」をテーマに、第28回地域づくり団体全国研修交流会が11月11日～13日、青森県で開催され、全国各地から地域づくりに関わる約300名が参加しました。

今、青森県は、12月4日の東北新幹線全線開通(新青森駅開業)を契機に、観光客を呼び込むとともに、歴史、自然、文化、食など青森の地域資源を活かした特色ある地域づくりに取り組もうという気運が高まっています。



前夜祭では津軽海峡産マグロの解体ショーが催された



オープニングアトラクションでは津軽三味線の演奏が披露



地域づくり青森県検定で青森や全国の地域づくり情報をクイズ形式で紹介

新幹線開業直前に開催された本大会は、地元青森の方々の地域活性化に向けた熱い想いを感じる大会でした。

## 前夜祭・全体会

11日の前夜祭では、青森県知事も出席し、青森県産の食材を用いた郷土料理などがふるまわれ、青森県のB級グルメ屋台が設置される中、全国の地域づくりに取り組む参加者が互いに交流を深めました。

12日の午前中は全体会が開催され、郷土色を活かした催しが行われました。

オープニングアトラクションでは、津軽三味線全国大会A級チャンピオン三連覇の渋谷氏をはじめ、津軽三味線奏者達による演奏が行われ、三味線の弦を強く弾く音色が会場を包み込みました。

## 分科会

大会主催者の挨拶の後、「地域づくり青森県検定」が行われ、B-1クランプリや青森にまつわる内容がクイズ形式により紹介され、クイズの回答が出るたび会場から歓声があがりました。成績上位者には、賞品として青森県の特産品がプレゼントされました。

大会の終わりには、来年の開催予定県である熊本県よりPRが行われました。

全体会終了後、15の会場に分かれて分科会が催され、青森県内各地の地域づくりの取り組みについて研修交流が行われました。私は、中泊町の「グリーン・ツーリズムでまちづくり」分科会に参加しました。

この分科会では、「今も生きづく、奥津軽の暮らし」をテーマに、主管団体である中泊

町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」(平成21年4月設立)のメンバーなどと、グリーン・ツーリズムの取り組みに関する情報交換や交流会、奥津軽の伝統芸能の観覧、ローカル鉄道での広大な田園風景の視察など、この地域の資源をふんだんに盛り込んだ研修交流会が開催されました。

泊中では、グリーン・ツーリズムの会「かけはし」のメンバーが、全国的に「かけはし」の取り組みが盛んな地域を訪れ、その地域の特長や魅力を学び、自分たちの地域に活かすためのアイデアを交換し、今後の活動の方向性を話し合いました。



初日は、「地域活動を長く続ける秘訣」をテーマに、「かけはし」の取り組みにおける現状や課題、今後の対策などについて意見交換が行われました。

意見交換会の後、津軽地方の漬物づくり体験や郷土料理でもてなす交流会、夜なべ談話で分科会に参加した全国の参加者と「かけはし」などのメンバーの間でお互いの地域づくりの取り組みが談話されたり、各県の方言が紹介されるなど、交流を深めました。

翌日は、青森県出身の太宰治が津軽地方を探訪して生まれた小説「津軽」にも登場する子守のタケと太宰治の再会の地を望む丘にある、小説「津軽」の像記念館を見学、続いて、明治40年に始まり、今日まで受け継がれてきた「金多豆蔵人形劇」を見物。全編津軽弁で金多と豆蔵が掛け合い漫才を繰り広

げました。ほかにも人形の手踊りなどが演じられ、津軽の風俗を取り入れた伝統芸能を楽しみながら堪能できるよう演出に創意工夫が見られました。

分科会の最後は、石炭ダルマストーブを備えた「ストーブ列車」に乗車し、ゆっくりとした速度で奥津軽の広大な田園風景を眺望しました。

今回の研修交流会は、青森が厳しい気候条件や地理的条件などでハンディキャップを抱えながらも、それらの風土により育まれた独特の文化、食などをいかにして地域づくりに活かそうとしているかを感じ取る良い機会でした。また、全国から参加した地域づくりに携わる人々との交流により、様々な人々の様々な取り組みに関する生の情報を得られ、新たなネットワークが構築されるなど、有意義な内容でした。



津軽地方の漬物づくり体験



金多豆蔵(きんたまめじょ)人形劇。全編津軽弁で繰り上げられる伝統芸能



津軽平野をゆっくり走るストーブ列車。車内では「かけはし」のメンバーによる手作り弁当(弁当箱も手づくり)でおもてなし